

郵政労働者は怒りをエネルギーに 換えて11・7日比谷に集まろう!

効率化施策・生産性向上に向けた取組

- グループ全体として、業務効率化を徹底し、かつ重点分野に投資を行うことで生産性を向上し、グループ主要4社において約3.5万人相当分の労働力の減少を見込みます。（注）2020年度 労働力は約39万人相当
- 労働力の見通しに応じ、適切な要員配置を行います（採用者数の抑制などによる自然減等）。

	効率化・生産性向上施策の概要	労働力の見通し	費用削減
日本郵便	<ul style="list-style-type: none"> P-DXの推進やオペレーション改革、窓口業務運営のデジタル化などにより、業務の効率化を徹底 現在のネットワーク水準を維持しつつ、効率化等による業務量の減少や適正な要員配置に伴い、労働力が減少（▲30,000人（▲8%）相当分）（2020.4～2025.4） 重点分野への投資を強化し、生産性の向上と将来の収益力向上を目指す 	▲30,000人相当分 <small>※新しい中干ばり業務増強の削減に等しい中干ばり業務削減の削減に等しい中干ばり業務削減の影響（※13,000人）は含まない</small>	▲1,600億円 <small>※新しい中干ばり業務増強の削減に等しい中干ばり業務削減の削減に等しい中干ばり業務削減の影響（※13,000人）を含む</small>
ゆうちょ銀行	<ul style="list-style-type: none"> 計画的なスキルアップにより、デジタル化対応等の強化分野の増員を行う一方、業務改革により業務量を大きく削減し、総人員3,000人減を計画 DX推進等の重点分野への投資を積極的に行う一方、既定経費を大きく削減し、経費全体を550億円削減 	▲3,000人	▲550億円
かんぽ生命	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化の推進により、お客さまサービス向上と業務の効率化及び経費の削減を推進 効率化により生じた経営資源をお客さまサポート領域、DX推進など強化領域にシフト 	▲1,500人	▲280億円

〔注〕 1. 労働力の見通しについては、現時点で想定する業務量に基づく見通しであり、業務量の増減に合わせて随時増減するもの。
 2. 労働力の見通しについては2020年4月と2025年4月（予想）の比較、費用削減については、2020年度と2025年度（予想）の比較、ただし、かんぽ生命については、2020年度は営業自費の影響があるため、新たな営業スタンスへ移行後となる2021年度（予想）と2025年度（予想）の比較としている。
 3. 期間雇用社員を含む。
 4. 各社の費用削減については、各社において算出したものであり、グループ連結による調整分を加味していない。なお、日本郵便は人件費、ゆうちょ銀行とかんぽ生命は営業経費の削減について記載。

『J P ビジョン2025』（2021/5/14）より

郵政労働者の訴え

な！
土曜休配・3万5千人削減許す
今こそ闘う労働運動を！

【危険と隣り合わせ】

私は郵便局で配達の仕事をしていきます。コロナ感染陽性者が増え始めています。私の職業を

週一回局独自で営業会

場でも感染者が出ました。身近に危険が迫っています。

議を行い集中営業日を決

めて営業に行かされてい

ます。指示をする管理者たちは安全な場所から指示をするだけです。

配達現場の社員が危険を犯しながら営業もやらされています。

これから年末に向けて年賀はがきの営業も控えています。

【職場は矛盾だらけ】
郵政職場では10月から土曜休配が始まる。日本郵政・増田社長は『JPビジョン2025』を発表し、グループ全体で3万5千人の人員削減を宣言した。日本郵便で3万人、ゆうちょ銀行で3千人、かんぽ生命で1500人の社員を削減する計画だ。こんなことは絶対に許してはいけない。

【社会も職場も不安だらけ】
いま、誰もが感じていることは、今の国政を司っている人間たちの無謀さ、横着さである。人間性に乏しく、スケールが小粒で全く誠意が見られない。いつからこんなに劣化したのだろうか。

【郵政労働者が立ち上がる時はきた】
急によくならない。泣き言を言っても始まらない。ましては無関心はなおさらだ。怒りを持った郵政労働者はたくさんいる。闘う労働組合を甦らせる時です。労働者の団結で、怒りをエネルギーに換えて郵政労働者も11・7日比谷にあつまろう。

【社会も職場も不安だらけ】
いま、誰もが感じていることは、今の国政を司っている人間たちの無謀さ、横着さである。人間性に乏しく、スケールが小粒で全く誠意が見られない。いつからこんなに劣化したのだろうか。